

無線LANホットスポットサービス

主要な駅、空港、ホテル、コーヒーショップ等での無線LANホットスポットサービスが、新聞雑誌等で大きく取り上げられ注目を集めています。このサービスがどのような仕組みで行われ、今後どのように展開していくのか、概要について述べてみたいと考えます。

無線LANホットスポットサービスの概念は図-1のように示されます。駅、空港、ホテル等のホットスポットには、基地局に相当するAP(無線LANアクセスポイント)が設置され、このAPは、ADSL、光ファイバー等の高速回線を介して、IP基幹網に常時接続されます。ホットスポットの利用者はパソコンに装着した無線LANカードからこのAPに無線接続し、メール送受信やウェブ検索等の高速インターネットサービスを受けることができます。すなわち、無線LANホットスポットサービスは、オフィスや自宅等の固定された場所だけの高速インターネットサービスを、外出先で可能とし、利便性を大きく向上させることとなります。現在ホットスポットの無線LAN方式は、世界標準のIEEE802.11bが使用され、無線伝送スピードは11Mbpsです。今後は54Mbpsの高速方式(802.11a/g)が採用され、現行方式と併用で展開していくと推定されます。

現在の利用形態は、セキュリティ(情報の漏洩、悪用)の問題からWebブラウザによる情報収集や厳密な秘密保持の不要なメールの送受信にとどまっていますが、ブロードバンドインターネット利用の企業通信は今後3年間で27

倍になると予測され、ビジネスマンのホットスポット利用デマンドは益々増大すると推定されます。一方では、無線LANのセキュリティが問題視され、新聞、雑誌、インターネット上で、脆弱なWEPセキュリティ、狙われる無線LAN、侵入者の王国無線LAN等センセーショナルな見出しで大きく取り上げています。ホットスポットサービスが企業通信に受け入れられるにはこのセキュリティに関する心配を払拭しなければなりません。不正アクセス、なりすまし、無線盗聴等のセキュリティ問題を解決するために、RADIUS認証や無線区間の高度な暗号化、さらにはアプリケーションレベルでの暗号化等、認証・暗号技術が導入され、セキュリティの問題は解決されていくと考えます。セキュリティ問題の解決により娯楽系の利用が主であったホットスポットサービスは、企業通信分野の利用が大きく拡大し、ブロードバンドユビキタスネットワーク実現を更に進める原動力になると期待されます。今後は、3G携帯電話と無線LANの一体化、VoIPの普及等で、無線LANホットスポットサービスは、通信のイメージを大きく変えていくと確信しています。

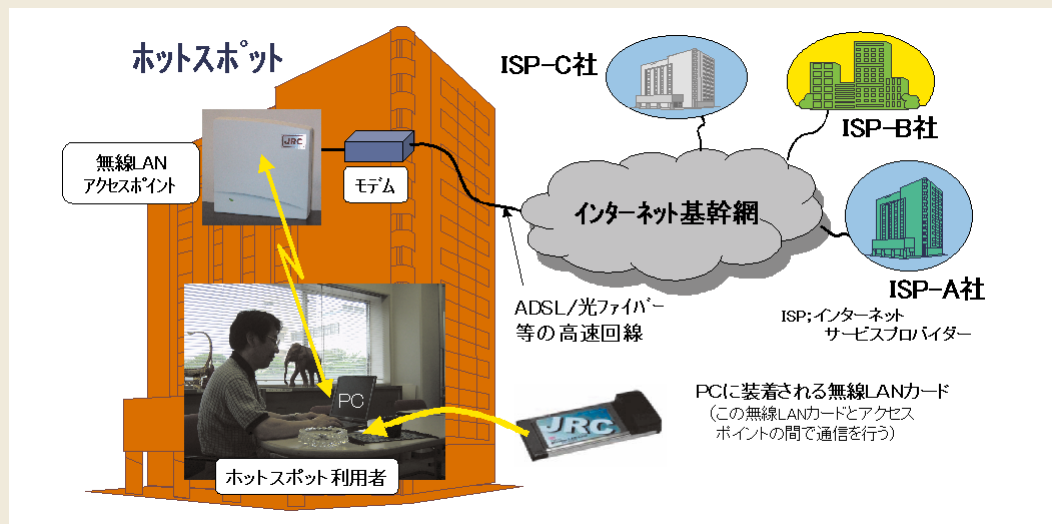


図-1 駅、ホテル等のホットスポットサービス概念